



2010年度ナショナルチーム選考レースレポート

ロンドンへ向け、世界と戦える選手を!

2010年度ナショナルチーム選考レースが2月11日～15日、鹿屋海洋スポーツクラブ(鹿屋市高須町)をベースに開催され、男子470級13艇、女子470級4艇、レーザー級11艇、レーザーラジアル級9艇、男子RS:X級3艇、女子RS:X級4艇が参加した。

JSAFオリンピックピック特別委員会ホームページ <http://jsaf-osc.jp/>

選考レースとしてふさわしい大会

オリンピック特別委員会(オリ特)が本レースを鹿屋市で実施したのは、ロンドン五輪、ISAFワールド大会(オーストラリア・パース、11年12月)の風を念頭に置き、予想される順風以上の風域で8レース以上を実施でき、さらに水温が高く、参加選手の怪我や寒さによる負担を軽減するという条件を満たす場所が鹿屋市(錦江湾)だったからです。

鹿屋の情報を収集し、山田敏雄オリ特委員長と現地へ行き、施設の状況、地元協力体制を確認し、運営艇や備品が足りないものについては和歌山ナショナルトレーニングセンターから拝借することで対応することとし、当地での開催を最終的に決定しました。

大会を終えた今、各クラス8レース以上が順風以上の中で消化でき、6種目それぞれが12レース以上実施できたこと、陸海の運営もスムーズにできたことなどから、ナショナルチームの選考レースとしてふさわしい大会が行えたと考えています。

男子470級

470級男子は原田・吉田チーム(アビームコンサルティング、敬称略、以下同)が昨年の海外で見せた実力を随所に発揮し、順風までは圧倒的に走り、強風域でも走りがよくなったことに気づきました。今年の海外大会でも活躍が期待できます。

2位に入った松永・今村チーム(スリーポンド)の松永選手は、北京オリンピック終了後に470級から離れキールボートで活動していましたが、今年に入り今村選手とコンビを結成し、1年半のブランクを感じさせないレースを見せました(違うヨットに乗ることでセーリングの幅が広がったように感じました)。

3位は石川・柳川チーム(関東自動車工業)。強風の走りでアドバンテージがある

と思われましたが、今回はスピードを出すことができず苦戦していたようです。今後のもうひと伸びに期待します。

4位には09年ナショナルチーム2チームを抑え、新鋭の市野・吉見チーム(ケアマネジメント)が入りました。若さ、そしてナショナルチームに入るという意気込みが強く伝わってきました。ロンドンそして次のリオに向け活躍するチームになると信じています。

女子470級

470級女子はISAF世界ランク2位の近藤・田畑チーム(アビームコンサルティング)が12レース中9回のトップで圧勝でした。世界のトップランカーの風格を感じさせ、強風でも男子選手にもひけを取らない力強いセーリングは圧巻でした。

2位には吉迫・大熊チーム(ベネッセコーポレーション)が入りました。吉迫チームは近藤チームを意識するばかりに、レース展開が後手に回るケースがあったように思いました。もつと自由に、早く次のマークに到達するシンプルなコース取りで、海外の大会では活躍してもらいたいチームです。今回、470級女子は4チームの参加で少し寂しい感がありました。世界を目指す若手チームをもっと増やす必要があります。

レーザー級&レーザーラジアル級

レーザー級は11艇の参加があり、上位4チームがナショナルチームに選出されました。ホール・イアン選手(フリー)がカットレースを除きすべてトップフィニッシュでダントツの成績でした。テクニクも体力も向上しており、また、精神的に強くなったと見えました。これからもっと強くなるはずですよ。

2位には地元安田選手(鹿屋体育大)、3位には永井選手(豊田合成)が入りました。永井選手は09年レーザーラジアル世界



今大会開催に当たり、地元鹿児島県、鹿屋市、鹿屋海洋スポーツクラブ、鹿屋市漁業協同組合、鹿屋市高須町内会、鹿屋体育大学、鹿児島セーリング連盟、和歌山ナショナルトレーニングセンター、愛知県ヨット連盟、レース委員会、ルール委員会など多くの関係各位にご協力いただき、2010年度ナショナルチーム選考レースが無事終了できましたことに感謝を申し上げます。

選手権で4位に入賞しており、本年11月に開催される第16回アジア大会(中国・広州)のオープン種目(男女の区別なし)のラジアル級の代表候補に推薦し、アジア大会で金メダル獲得の使命を与えたいと思っています。4位には09年度ナショナルチームの斎藤選手(秋田県セーリング連盟)が入りました。

男子レーザー級は4チームの内3チームが昨年と同じ顔ぶれです。昨年は遠征がほとんどできず世界選手権では揮いませんでしたが、今年は海外遠征をしっかりと行い、まずはオリンピック出場枠獲得範囲内の成績を目標にしたいと思います。

女子ラジアル級は3チームがナショナルチームに認定されました。

09年度と同じ顔ぶれで、1位が蛭田選手(豊田自動織機)、2位が地元鹿屋体育大の高橋選手、3位に長谷川選手(豊田自動織機)です。

ほとんどのレースがオーバーパワーコンディションだったので、練習をしつかり行った選手が上位となりました。蛭田選手は13レース中7レースをトップでフィニッシュ。まわりを見る余裕が出てきたようです。一方、若手の中からナショナルチームを脅かす選手も現れており、競争が激しくなっておりレベラアップが期待できるクラスです。

シングルハンドはストイックでなければ世界に通用しません。十分な体力、体重がなければ、世界の舞台で活躍できないので、海外遠征までの乗り込み、練習を重ねてレーザー級と同様、オリンピック出場枠獲得順位を目標にしたいと思います。

男子RS:X級と女子RS:X級

男子RS:X級は3チームしかエントリーがなく、ナショナルチーム選考を実施するギリギリの艇数となり、きわめて寂しいものがありました。憂慮すべき事態です。

そうした中、当然といえば当然のように、富澤選手(関東自動車工業)が圧倒的な実力差で別次元の走りを見せつけました。この種目は風が強くなればなるほど力の差が現れるので、富澤選手を脅かす選手の育成が急務となります。

ナショナルチームの選考数は、基本的に選考数プラス2チームのエントリーが必要なので、本来、同級は富澤選手のみで選考となります。しかし、2位に学生の選手が入ったことを受け、検討の結果、期待も含めて追加認定という形で高橋選手(関東学院大)をナショナルチームとして認定しました。

女子RS:X級は1位の小菅選手(新潟県セーリング連盟)、2位の須長選手(ミキハウス)を選出。強風になればなるほど体型、体力に勝る須長選手が他選手を引き離す一方、順風域になると小菅選手、総合3位になった大西選手がトップを走ることもあり、最終成績は僅差となりました。

RS:X級は470級などよりも浮力が小さいため、体重によって速く走れる風域が変わってきます。11年ISAFワールド大会、ロンドン五輪の予想風域は高いですから、スタッフも選手も万全の準備をしなければなりません。

総括として

どのクラスも1位と2位以下に実力差があるように感じました。最低でも各クラスとも上位2チームがより強くなるようにするのがオリンピック特別委員会の使命です。昨年は経済状況の悪化、新型インフルエンザの流行で海外での練習がままならず、結果として海外遠征を多くしたチームが今回のトップになっています。

今年はいよいよヨーロッパ遠征を多く行い、より高い技術を習得し、「世界と戦える」選手を育てなければならぬと考えています。そのためにも選手、スタッフ一丸となりさらなる精進努力を続ける覚悟です。(中村健次/JSAFナショナルコーチ)